

第3号様式

平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）成果

分類 番号	A23	取組 名称	亀岡市旧篠山街道および周辺地域における文化的景観に関する調査研究
研究代表者：生命環境科学研究科・教授 大場 修			
研究担当者： 丹波亀山城と城下町を守る会・代表 永光 寛 亀岡市教育委員会社会教育課文化財係（丹波亀山城と城下町を守る会・事務局）中澤 勝			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
亀岡市教育委員会			
【研究活動の要約】			
<p>本研究は昨年度に引き続いて、亀岡の旧城下内外における伝統的な家屋を取り上げ、その包括的な検討を行い、亀岡旧城外の街道沿いに立地する伝統的家屋について、家屋配置や平面構成、構造形式、などについてその特質を明確にした。</p> <p>昨年度の作業を継続して、亀岡市域における街道沿いの伝統的民家に加えて周辺集落における伝統的民家を対象に分布調査を行い、その中から重要と思われる家屋について実測調査を行った。その際には間取りの復元的把握と構造形式の把握に重点をおいた。亀岡城下、および周辺の街道沿いにおける伝統的家屋の分布状況は、図1の通りである。街道筋に立地する家屋には妻入と平入の両方が混在する。軒数を見ると平入98軒、妻入12軒で平入が圧倒的に多い。また、間取り調査より妻入の方が総じて建築年代が古いことが分かった。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>本研究の成果は、以下のようにまとめることができる。</p> <p>街道筋に立地する家屋には妻入と平入の両方が混在する(図1)。軒数を見ると平入98軒、妻入12軒で平入が圧倒的に多い(表1)。また、間取り調査より妻入の方が総じて建築年代が古いことが分かった。このことは先行研究でも指摘され、妻入家屋は摂丹型民家に由来する伝統的形式を保持した家屋形式といえる。ただし、妻入家屋の立地状況を見ても、各地域に分散しており、立地に特段の傾向はないように思われる。</p> <p>次に接道型民家(図2/写真1)と非接道型民家(図3/写真2)の立地傾向を調べた(図4)。結果は、城下町に近い柏原、余部にこれらの事例が多いことが確認できた。これら各地区は城外の町続きから引き続く集落であり、町場的な性格を他の地区よりも強く持っていたものと推察される(柏原：12軒中接道型10軒、余部：10軒中接道型7軒)。</p> <p>接道型民家は、これら城下近郊の街道沿い集落に加えて、吉田地区にも多く立地していることが確認できた(吉田：23軒中接道型16軒)。吉田地区は城下から3km程離れているものの、かつては商店が軒を列ね、商業を兼業する農家が多く立地していたという(聞き取りより)。吉田地区は亀山城外の在方にあつて、在方経済の要となる町場的な性格の強い集落であったことが指摘しうる。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>(開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください)</p> <p>今後、成果が纏まり次第、同市教委と実施に向け検討する。</p> <p>(報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください)</p> <p>成果が纏まり次第、関係学会（日本建築学会または日本民俗建築学会）へ投稿予定。</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 史的住環境学研究室 教授・氏名 大場 修			
Tel: 075-703-5419		E-mail: oba@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

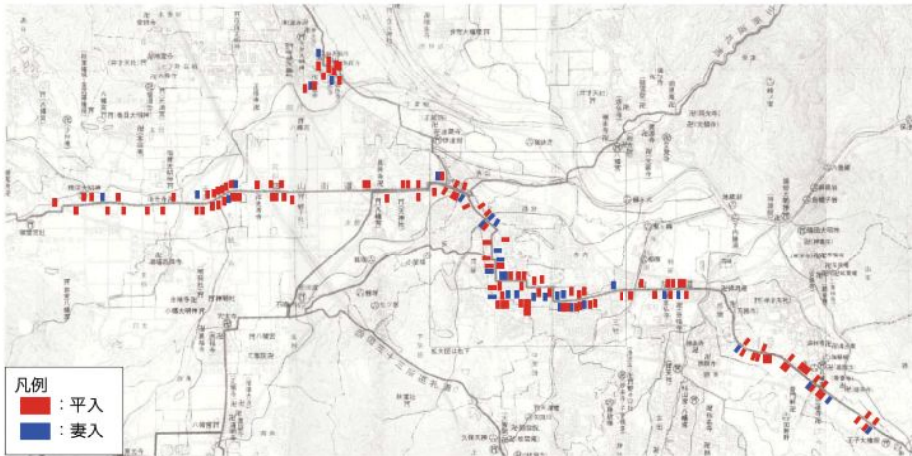


図1 平入、妻入家屋分布図

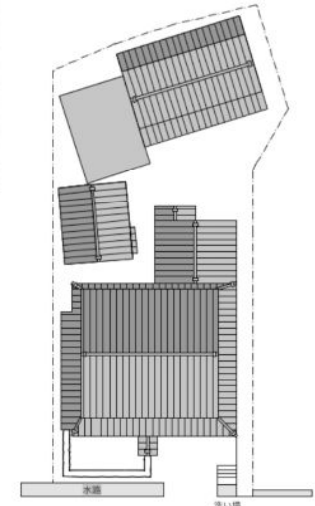


図2/写真1 接道型
(美馬家、吉田)



図4. 接道・非接道分布図【王子・篠】

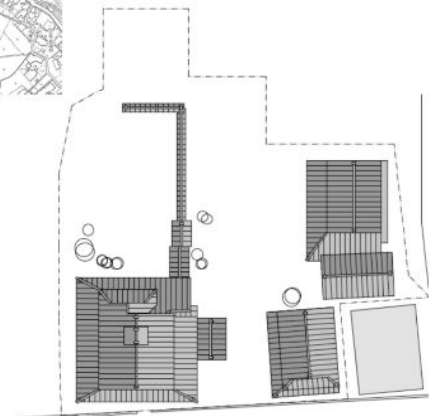


図3/写真2 非接道型
(大石家、佐伯)

表1 街道筋に立地する伝統的家屋

地区	総数	瓦	茅	平入	妻入
王子	8	5	3	6	2
篠	24	20	4	22	2
柏原	12	12	0	10	2
余部	10	9	1	9	1
穴川	9	8	1	9	0
吉田	22	21	1	19	3
佐伯	8	7	1	7	1
東本梅	9	7	2	8	1
並河	8	8	0	8	0
合計	110	97	13	98	12